カトリック仙台教区報

2013年3月3日　No.210
発　行
カトリック仙台司教区
〒980-0014
仙台市青葉区本町 1-2-12
Tel(022)222-7371 Fax(022)222-7378
発行責任　広報委員会
URL http://sendai.catholic.jp/

2年間の寄り添い

仙台教区サポートセンター事務局長
成井　大介　神父

この2年間、仙台教区サポートセンター（SDSC）は、全世界の人々からのお祈りと支援、そしてオールジャパンカトリック教会体制での取り組みに支えられ、活動を続けてきました。「新しい創造計画」第2期を終え、第3期に入ろうとしている今、これまでの歩みを振り返り教区の皆さんにご報告したいと思います。

生活再建のための支援

活動を始めた当初から、家、側溝、公園、砂浜などからのヘドロ、がれきの撤去のためにボランティアを派遣してきました。これにより、多くの家庭が自宅に住むことができるようになり、人々が公園で憩うことができるようになりました。「カリタスボランティア」が団体として地域の人と交わり、信頼関係を築けたのもこうした作業のおかげです。南三陸などは今もまだがれき撤去作業がボランティアにより行われています。

共同体作りのための支援

人々が避難所から仮設住宅に移ってからは、ベースや仮設住宅において、ボランティアによるお茶っこやイベント、個別訪問を通して、共同体作りを手伝ってきました。一人ひとりがつらい思いをはき出し、新たな生活を始めるための寄り添い。そして、そうした人々が新たな場で、人々と出会い、互いに支え合って生きていくための寄り添いを続けています。

この活動は、これから生活の場が復興住宅に移っていっても続けられます。

経済再建のための支援

各ベースは、地域の経済復興支援にも関わっています。牡蠣、わかめなどの養殖設備復旧や収穫、網の補修など、人手を必要とする漁業作業を手伝ってきました。震災後、避難によって人手が足りなくなりましたが、ボランティアの姿を見て、「またがんばろう」と浜に戻ってくる人もいらっしゃいます。

私たちはこうした活動を、いずれ去って行く外からの支援団体としてではなく、教会を中心とした、地域に根ざし、ともに住み続ける団体として行ってきました。新しい創造計画のもう一本の柱である、小教区による活動も次第に活発になってきています。小教区、サポートセンター、オールジャパンの活動の境が無くなり、それぞれの強みを生かし、より持続的な活動に育ってきているように思います。これからも、「一人ひとりが大切な存在なんだ」という福音をともに伝え、伝えられる教会共同体として歩みを進めていきたいと強く希望しています。

神言修道会司祭でカリタスジャパン秘書の成井大介師は、2011年3月11日東日本大震災直後の仙台教区サポートセンター（SDSC）立ち上げの時から、センターの事務局長として仙台教区に派遣され、丸2年余にわたり支援活動の中心にあって活動してくださいました。成井師のお働きがなければ仙台教区の支援活動は成り立たなかったと言えます。感謝してもしきれるものではありません。本当にありがとうございました。

成井師は修道会の任務のため名古屋の管区本部に帰られることになりました。この3月末をもってSDSCの事務局長の職を終えられ、これからは今まで以上に世界中を働きの場として活躍されることになります。神様の豊かな恵みの中に健闘されるようお祈りいたしましょう。

仙台教区　司教　平賀　徹夫

生命の泉

キリスト教とイスラム教の宣教の方法は対照的だと言われる。即ち、キリスト教の場合、宣教師が単身で異郷の地に入り、地域との関わりを広げながら布教するのに対して、イスラムの場合は地域全体を巻き込む形で信教共同体の拡大を図る。地域の拡大にあたって欠かせないのは仲間意識の醸成だ。イスラムの銀行には預金者に利子を配当せず、その分を貧しい人に回してもらうなどの互助制度がある▼1・16アルジェリア人質拘束事件は、砂漠といえども彼らのテリトリーだった地域を先進諸国による資本投下で精油所建設が始まった。この施設が国家のプラントだとしても、部族発想のテロリストに関係はない▼世界規模で駆け巡る巨大資本は、永らく育んできた伝統と生活を破壊し、民族的、部族的なアイデンティティを奪った。その怒りはテロの残酷さに現れる。イスラムの教えが悪い訳ではない▼一方、豊かになった我々にも経済的、能力的な評価で格差を広げ、悲惨さ、惨めさが暴力となって噴出する。モノは人を幸福にしないと言われても誰もが豊かさを選ぶ▼およそ50年も昔のこと、神学校に30個ものダンボール箱を持って入学した人がいた。皆、少ない荷物で一部屋15、6人、人で溢れていた。▼この荷物は象徴的だった。この荷物を境に召命は次第に減って行き、それからは志願者が一度も前年を上回ることがなかった。やがて二つの施設は一つになっても空き部屋があった▼モノに囲まれて一人だけがポツンといる。その垣根の中には誰も入れない。無縁社会の出現だ。それをもお金によって解消しようとする人だけの社会になった。（守）

2012年度　仙台教区研修会

「教会の典礼とは？」

仙台教区宣教司牧評議会主催の「仙台教区研修会」は毎年研修テーマを設定して各県ごとに実施してきた。今年からは、複数年にわたって同一テーマで「典礼」について研修を深めようという事になり、今年度は、「教会の典礼とは」というサブテーマで、講師を大船渡教会の森田直樹神父に、各県ごとに研修会が開催された。

1．典礼における聖歌の意味と目的

聖歌「あなたの息を送ってください」をみんなで歌った後に、聖歌は、ことばの意味とそれを歌う目的を意識しながら丁寧に歌う。丁寧に歌うことはテンポを遅く歌うという事ではない。高田三郎氏は、「教会で聖歌を歌うということは、それによって教会を天国にするということなのです」といっておられます。上手下手や、声の良し悪しを気にするより、自分の祈りとして心をこめて歌うことが大事です。

2．典礼への意識的参加

第二バチカン公会議以前のミサでは、司祭がラテン語で祈り、聖歌隊が聖歌を歌う。信徒はミサの進行と関係なくそれぞれがロザリオや個人的な祈りをしていた。

第二バチカン公会議以降は、信徒がミサの傍観者ではなく、意識的、行動的に参加し司祭と共にいけにえとして自分自身を奉献し、いのちのみことばといのちのパンによって養われ、神の恵みに満たされて派遣されるのです。そのため信徒はミサについてよく理解することが大事です。

3．充実した行動的な参加

典礼においては、充実した、行動的な、意識的な参加が求められます。「充実した」とは、〈時間〉に遅れないこと、〈心の中〉で集中することです。

ミサにどの時点から出ればミサにあずかったことになるかと問われることがあります。

ラテン語のミサだった時は、聖変化の時からあずかればご聖体を受けられると言われていましたが、みことばと聖体は不可分ですから、福音の時からと言えます。でも、第一朗読も福音に密接にかかわりますから、結局最初からあずかるべきでしょう。

行動的な参加とは、先唱、朗読、共同祈願、奉納など自分の果たすべき〈役割〉を完全に行うこと、役割がない時でも、ことば、聖歌、動作（立つ、座る）、姿勢などの〈表現行為〉を持って典礼に参加することです。

〈意識的に〉とは、表現行為を〈感情を込めて〉行い、祈りの場を作るために〈沈黙を守る〉とか〈聴く用意〉をする、司祭の呼びかけに〈心を込めて〉答えることです。司祭が「主は皆さんと共に」と呼びかけているのに、信徒が「また司祭と共に」と答えてくれなければ、司祭はその場から立ち去ることしかできません。

「アーメン」は、「そのとおりです」「そうなりますように」という意味ですから、どんな祈りの内容かをしっかり受け止めて「アーメン」と唱えてください。

4．典礼は神の民の公の神への奉仕

アウグスチヌスは「ご聖体をいただきながら、自分の考えや行動を変えないという人は、ご聖体を受ける意味がない」と言いました。

典礼の中で、救いの道がはっきり示されています。典礼の中で神の恵みを受け止めるのです。典礼は、神の民の公の神への奉仕であり、神もまた私たちに奉仕してくださいます。

地区制ということ

司教　平賀徹夫

一昨年から昨年にかけて、わたしたちの教区が仙台教区と改称されてから75年になるのを記念して「仙台教区年」をお祝いしました。そして皆で、この教区が北から青森、岩手、宮城、福島４県の５３小教区から成っていることを確認し、「主においてわたしたちは一つ」をうたったのでした。

これと並行して、これからの仙台教区のあり方として「地区制」の形をとって進みたいとも提示してきました。小教区という今までの範囲を超え、地区としてグループ分けされた小教区群での信徒も司祭も修道者も皆で、互いの関わり・交わりをもっと広めかつ深めることを心がけながら、その地区の教会全体で地域での宣教、司牧ということを意識できたら良いということです。

地区制の具体案については、司祭評議会と宣教司牧評議会を通して、教区を１２の地区に分けてみてはどうだろうかと提示し、小教区および県での話し合いや意見を求めてきたところでした。現実の小教区の分布状況をみるならばグループ分けは１２で良いのか、もっと少なくあるいはもっと多く、とかの考えが出てくるかもしれません。これには、司祭数の減少が懸念されるというファクターなども考えに入れる必要もあります。信者の皆さんからのご意見の最初の集約は、今度３月２０日に開かれる宣教司牧評議会定例会で行われる予定です。

大事なことですが、この地区制の考えは、教会を整理統合して小教区数を少なくするというねらいによるものではありません。それぞれの小教区共同体で今まで培ってきた互いの交わりは大切にしてください。その上で、その心遣いの範囲を地区へと拡大していきたいのです。教区年の間どの小教区でも、例えばスタンプラリーの目に見えるわざとして、共同祈願のとき教区内の全小教区を順番に思いながら祈り合ったでしょう。それを続けられたらすばらしいですが、特に同じ地区内の小教区同士、互いを思いながらその絆をもっと強められるように心して祈ることから地区制が目指すところへの成長が始まるだろうと思います。

5．典礼はキリスト
ご自身の行為

すべてキリストの行為は、現存しています。特に典礼行為に現存しています。キリストは、ミサの中に、ご聖体のうちに現存しています。その他の秘跡の中にも現存し、朗読される「みことば」の中にも現存しています。「みことば」は、聴くこと、聴いて味わうこと、どのことばが自分の中に響いたかを確認してください。ですから、「聖書と典礼」を見ながら聴く、あるいは、ミサの朗読で聖書の代わりに「聖書と典礼」を読むのはふさわしくありません。

典礼はキリストの行為ですから、司式者がだれであるかにかかわらないのです。教会の秘跡は、救いの源であるキリスト自身の行為であり、超自然的結果をあたえる力を持ちます。秘跡の司式者がだれであるか、その人の人徳がどうかとは関係がありません。

司教様の隣でご聖体を配っていると、列に並んだ人が、後ろの方で司教様の列に移動する様子を見ることがあります。気持ちは分からなくもありませんがご聖体の秘跡の効力とは関係がありません。

聖体拝領後に、深々と礼をする人がいますが、今自分の所に秘跡のキリストがいてくださるのに、何に向かって礼をするのでしょう。

6．神の恵みの
見える効果的シンボル

典礼は、目に見えない神の恵みの、見える効果的なシンボルです。

神の恵みを受ける7つの秘跡が定められています。叙階の秘跡は司教が、婚姻の秘跡は両当事者が(司祭は祝福をあたえる)、その他の5つの秘跡は司祭があたえます。

それぞれの秘跡は、神の恵みの入ったタンクに付いた蛇口にたとえられます。秘跡を受けた時その蛇口から神の恵みが注がれます。

しかし、このタンクには、大きな穴が開いていて、常にあふれるほどの恵みが、豊かに注がれます。神様は、私たちがそれを願う時にいつも多くの恵みを注ぎたいと思っているのです。

カール・ラーナーによると、神を知る機会がなかった人でも自分の良心に従って生きた者（無名のキリスト者）は、神から見捨てられることなく、神の恵みを受けることが出来るといっています。聖なるものと俗なるものと区別されてきましたが、全てのものは神の創造によるものであり、神がそれを「良し」とされているのですから、全てのものは聖なるものと考えられます。私たちも、世俗の日常生活の中で聖なるものに気付くべきではないでしょうか。

7．今、ここで実現される

ルカ福音書に「イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。預言者イザヤの書物が渡され、お開きになると、次のように書いてある個所が目に留まった。『主の霊が私の上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである』。会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた」（ルカ4・16～20）。このように、典礼によって、救いの業が〈今〉〈ここで〉実現されているのです。

8．典礼における心構え

例えばヨン様ブームのころ、ヨン様に会えるとしたら、前の晩から眠れず、当日は、服装を整え、念入りに化粧して、そわそわと出かけるでしょう。典礼はだれとの出会いですか？

典礼は神との出会いの場です。それなりの心構えで出かけ、みことばをしっかり聴き、ご聖体の味を味わうことで、神様との出会いを大切にするはずです。

こうした典礼の体験を繰り返すことで深まり、神と交わり、その命に入るのです。

典礼を身に着ける段階は、①気づき②ふりかえり③受け入れ④変容することです。

その障害となるのは①習慣（マンネリ化）②感傷（センチメンタリズム）③人間の本性④沈黙の欠如⑤センスの欠如などがあります。

典礼をよく理解し、心をこめて能動的に典礼に参加することが大切です。

（資料提供・宮古教会 菅野耕毅氏）

参加者からは、「森田神父のユーモアと、テンポの良い話に引き込まれ、時間を忘れて聞きいった」。

「典礼について知らないことが多かったことに気付かされた。正に目からうろこ、今までなんとなく惰性でミサに出ていたが、これからミサに参加する心構えを改めたいと思う」。などの声が聞かれた。

研修会の実施状況

青森県
津軽地区11月10日㊏
本町教会　参加63名
南部地区　1月26日㊏
八戸塩町教会 参加67名
岩手県
県北　10月20日㊏
宮古教会　参加45名
県央　11月18日㊐
遠野教会　参加56名
県南　3月17日㊐　予定
宮城県　2月11日㊊
元寺小路教会参加約150名
福島県
2月23日㊏　郡山教会
（2月20日現在）

司教日程　3月・4月

3・1㊎ 仙台白百合学園高校
4㊊ 青森明の星高校
6㊌・部落差別人権委定例会
9～10 大船渡教会
11㊊（東日本大震災2周年）
12㊋ 司祭評役員会・司祭団役
13㊌ 全ベース会議
16㊏ 社会司教委・シンポジウム
18㊊ 福島会議
19㊋ 仙台白百合女子大
カト学法理事会
20㊌ 宣教司牧評議会定例会
22㊎ 仙台教区サポート会議（大槌）
24㊐ 受難の主日
26㊋ 会津若松ザベリオ学園
27㊌ 聖香油ミサ
28㊍ 主の晩餐
29㊎ 主の受難
30㊏ 復活徹夜祭
31㊐ 復活の主日
4・20㊏ 信仰養成講座
26㊎ 仙台教区サポート会議（いわき）

「信仰年」特集　第２バチカン公会議を学ぶ

「第二バチカン公会議を、今日に生きる（Ｉ）」

佐々木　博

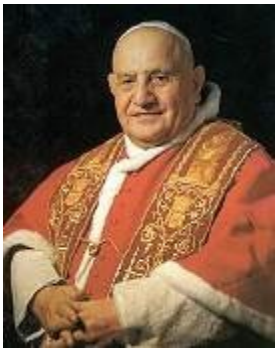
ベネディクト16世教皇は２０１１年10月『信仰の門』という題名の教令を発布し、「２０１２年10月11日から２０１３年11月24日の王であるキリストの祭日までの期間を『信仰年』とする」と宣言されました。これは、第２バチカン公会議の開幕50周年にちなんでのことであり、仙台教区の生涯養成講座でも第２バチカン公会議を学ぶ講座が行われている。講師を務める佐々木博師にお願いして、４回に分けて第２バチカン公会議について特集を組むことにしました。

第二バチカン公会議による刷新と改革

（１）驚きの開催

教皇に選出されてからわずか90日しか経っていない教皇ヨハネ23世＝写真＝は、１９５９年１月25日、教会一致のミサ後、少数の枢機卿の前で、公会議を招集することを、突然発表された。「わたしは今、感動におののきながら、かつ目的達成への謙虚な決意をもって、皆さんに二つの計画を発表します。ローマ教区の教会会議と全教会のための公会議です。…アジョルナメント（今日化）が実現することを望んでいます。…」

この唐突な発表は、教皇のお膝元では、まさに冷たい受け止め方しかできなかった。けれども、カトリック教会の枠を越えて全世界に積極的な反響を呼び起した。



（２）準備段階からのみごとな飛躍

早速、１９５９年５月には、全世界の司教たちへの公会議に関する諮問が開始された。１９６０年には、準備委員会が立ち上げられ最終段階の準備に入った。とにかく、今回の公会議は、第一バチカン公会議の継続ではないことを、教皇は確認された。

荘厳な開会式によって、１９６２年10月11日第一会期がスタートした。教皇ヨハネ23世は、ご自分でこの開会の演説の原稿を用意し、一時間以上にわたって熱弁をふるわれた。「三年の歳月を費やし、準備してきたこの公会議によって、教会は照らされ豊かにされ、人々の心を導くために新しい力をいただくであろう。…何よりもまず公会議は、伝承されたキリストの教えが忠実に守られ、一層有効に告知されるよう努めなければならない。教会は伝承された真理から離れることなく、今日の新しい状況や生活様式にも注目しなければならない。… 教会は、人々が生きる意味と目標とを理解するのを助け、正義と平和とすべての人々の兄弟的一致を促進するキリスト教的愛を至る所に広める。」

教会の改革と刷新を目指して開始した。

教皇ベネディクト16世引退

教皇ベネディクト16世は２月11日、枢機卿会議で、自身の高齢による体力の衰えを理由に、教皇職を今月末で退任すると発表した。

教皇は枢機卿会議の席上、「私は繰り返し、神のみ前で自身の良心の糾明をした結果、高齢のために、もはや教皇職を適正に遂行するために必要な体力が残っていないという確信に至りました」と、枢機卿たちに語った。ペトロの使徒座は、２月28日20時をもって空位となる。

コンクラーベは３月中旬に開かれる見込み。

教皇が自ら引退するのは、１４１５年の教皇グレゴリオ12世以来、およそ600年ぶりという。

信仰年、一信徒としての問いかけ ②

青森本町教会　佐井　総夫

「信徒の交わりである教会共同体の使命」

「信仰の深刻な危機」と、教皇様が現在の「時のしるし」を読み解き、信仰年を定められた今、シノドスや『信仰の門』をとおして、すべての信徒に「新しい福音宣教」を呼びかけていることを、私たちは真摯に受け止めなければなりません。そして、祈りと行動でそれを実現していかなければならないのです。

信徒の交わりには、司祭や奉献生活者の方々を含め、信徒間のいさかいや誤解、しがらみや軋轢など多くの困難が伴うのも事実ですが、その困難や苦しみを通らなければ、本当の教会共同体の実現はないように思います。教会共同体とは、私たち信徒の意思で集まっているというよりも、主の名によって御国の到来のために、集められているということを、常に思い起こすことが大切だと思います。

社会に開かれた教会（教会の現代化と刷新）とは、教会自体が世俗化し、そのアイデンティティを見失うことではなく、社会と断絶することなく、福音が世に息づくことです。ですから、この世俗に福音を宣べ伝えるとともに、次世代に信仰を引き継いでこその教会であり、信徒なはずです。私たち教会共同体と信徒の使命とは、イエス・キリストの名において集められた信徒同士が、互いに独善に陥ることなく、謙虚な姿勢で支え合い、教会の秘跡をとおして聖霊の力をいただきながら、すべての人々に福音を宣べ伝えることです。そこに、私たち教会共同体の真の姿である神の国としての福音共同体の完成があると思います。

「仙台教区サポートセンター 福島デスク」です。宜しく！

カトリック二本松教会／柳沼千賀子

あの日から1年3ヶ月目に、ようやく福島県にも仙台教区からのサポートが入り、原町にベースができました。仙台教区の対応が遅いのではなく、福島自身がかかえている問題ゆえに仕方のないことでした。しかし、その間も原町教会、いわき教会、松木町教会、郡山教会、二本松教会、白河教会、会津若松教会の信徒有志たちは独自に被災者のためのサポート活動を展開していました。しかし、長引く状況に疲れや今後の不安、対応の悩み等も出てきており、今後、各拠点の一致団結と継続的な支援の必要性から仙台教区サポートセンター長補佐の小松神父より「福島デスク」を立ち上げる提案を頂き、昨年12月にカトリック二本松教会の一角に設置され、その任を仰せつかりました。

福島デスクの役割は、県内の復興支援活動拠点からの情報収集と発信、ボランティア相談窓口、その他必要に応じて臨機応変に対応していきたいと思っております。（なお、福島デスクに宿泊施設はありませんので、ここでのボランティアは受け付けておりません。）

大震災後の現状の報道の少ない他県の方々に、もはや過去の出来事と思われてしまうことのないように、まだまだ町の復旧も進まず、将来の見通しもない避難者の方々の生活の現状をお伝えして、引き続き応援をお願いしていきたいと思います。皆様からの情報の提供、支援のご協力を宜しくお願いいたします。

◇福島デスクのメルアド
fd.nihonmastu@gmail.com

◇福島デスクのブログ
http://fukushimadesk.blogspot.jp/

福島デスクに携わる面々

“ただ今情報発信中”（二本松教会の一角3m²に設けられた福島デスク内

←仮設で餅つきのイベント。
ホワイトボードには「故郷に帰るまで生き抜こう！」というスローガンが。

2年目の3・11

【仙台教区の小教区】

前日の3月10日（四旬節第4主日）に犠牲者追悼と復興祈願ミサをささげる。

【大船渡教会】

3月11日午後1時30分から、平賀司教司式で大船渡ベースのスタッフ、ボランティアの方々、信徒の方々と共に追悼・復興祈願ミサをささげる。

【原町ベース】

東日本大震災の犠牲者をはじめ原発事故の被災者のために宗派を超えて祈りの集いを持ちます。3月10日(日)午後2時～午後3時カトリック原町教会　聖堂

聖堂は人数に限りがあります。参加される方は2月末日までファクスかメールでお知らせください。

原町教会fax　0244-23-3713
Mail:takano22fourth@yaho.co.jp

【亘理教会】

3月11日は亘理教会にて震災記念追悼ミサが予定されています。

司式は小野寺神父様　県南4教会が参加予定です。八木山教会も参加を検討中です。

2013年度 仙台教区の司祭人事

（異動の司祭のみ。2013年4月1日付、移動は復活祭後）

氏名（敬称略）赴任地【前職・前任地】

教区本部

小野寺 洋一　司教総代理（宮城県南地域担当を解く。司教館に居住）

青森県

ポール・トー（ケベック外国宣教会）黒石、五所川原、弘前　協力【仙台中央地区協力】

岩手県

中尾 直通（長崎大司教区）長崎教区へ帰任【宮古教会】

中 重広（あたり しげひろ）（長崎管区・那覇教区から派遣）宮古教会主任代行【新任】

イグナシウス・バサ（神言修道会）盛岡地区協力【新任】

ホセ・モンロイ（グアダルペ宣教会）盛岡地区担当【花巻担当を解く】

アントニオ・ハルノコー（淳心会）（移住移動者担当）大船渡主任、釜石主任

ギャリー・ゲストウェオ（同右）移住移動者担当（大船渡教会に居住）

ニコラス・コンディ（神言修道会）花巻主任【新任】

宮城県

エミール・エテメ（ケベック外国宣教会）仙台中央地区担当【盛岡地区担当】

森田 直樹（京都教区）仙台中央地区担当【大船渡主任代行】

ホセ・ゴンザレス（グアダルペ宣教会）宮城県南地域担当【仙台中央地区担当】

福島県は移動なし　以上

仙台教区サポートセンター事務局長　成井大介師（神言会・カリタスジャパン秘書）は、3月末を持ってサポートセンター事務長を退き名古屋管区本部へ戻ることになりました。

第３９回 「２・１１信教・思想・報道の自由を守る 宮城県民集会」

「憲法の危機と〝心の問題〟」 香山リカさん 講演会

毎年2月11日憲法記念日には、全国で憲法問題を取り上げた各種集会が開かれる。今年仙台では、仙台市民会館で、靖国神社国家管理反対宮城県連絡会議主催により、標記の宮城県民集会が開催された。カトリック正義と平和仙台協議会も加盟団体として集会に参加した。

集会の参加者は約630人。世話役団体責任者を加えると650人以上。大勢集まったと思うがやはり高齢者が目立った。

開会に先立ち、苦米地サトロさんの歌と、宮城のうたごえの皆さんの合唱が披露された。

１９４７年、日本新憲法が施行され、それまでの天皇を中心とした国家体制から国民主権に移行され、基本的人権が完全な形で保障された。憲法に対する今の国内情勢は戦前の天皇礼讃と結びついて「日の丸」「君が代」を強制し、「建国記念の日」を2月11日に定めている。歴史認識も排他的で国粋主義の愛国思想でデッチ上げ、戦争の出来る国となる為には憲法9条改正を着々と進めているのが今の政治家と大企業の癒着した関係にみる事が出来る。

講演で香山リカ（精神科医）さんは、「自己責任とか自立自助という言い方で、努力しても成功できないのは本人のせいだ、という風潮が広がっている。『ゴーマニズム宣言』の小林よりのり氏（漫画家）は、そのような行き過ぎた個人主義を打破するためには、「公」を重んじ天皇を中心とした国づくりが必要だと訴えて、若者たちに絶賛された。しかし、自分の弱さを正直に認めずに、天皇や日本国家というものに自己のよりどころを求める姿勢は、精神医学的には「強者への同一化」であり、健全な解決法とは言い難い。まして、そのような病理的社会状況の中で憲法を変えようとすることは、非常に危険な道である。他方で、私たちは、貧困の解決を含めて、どうすれば一人ひとりの人間（とりわけ若い方々）が大切にされる社会を作れるのかを考える必要がある」（要旨）と語りました。（主催者HPより）

香山リカさんの話から心に残った事は、精神医師から見た国内情勢から見えてきた人間の生きづらさ、不安、希望が持てない現実を抱えている人びと、特に若者が抱える問題を考えさせられた。ちまたで見る遊び呆ける若者より、真面目に考えてどこかと繋がりたい心のよりどころを探している若者が多いのだという。

「美しい日本」を立ち上げると言う現自民党とそれに賛同する政治家の政策に真面目な若者は繋がり、生きがいを見つけたように見える。生活基盤の経済の安定の成長が大切であるからそのために政治指導でやるのだと言うところに力強さを誇りに思えるからだ。しかしその政策の中身には全ての人々の幸せを求める倫理的良心の陰が見えない。

「金」と「力」に洗脳された若者の熱心さは、間違えれば自分と違う思想に攻撃性をもって刃向かうような危険性がある。

終了後、会場から仙台駅前までデモ行進をした。

（Sr.相良 なるみ）

香山リカさん＝１９６０年札幌生まれ。東京医科歯科大学医学部卒。精神科医。「九条の会・医療者の会」に参加、靖国問題など多方面で活躍している。

だから、原発やめて 缶バッチ

昨年7月からはじまった「脱原発みやぎ金曜デモ」に取り組んでいるカトリック正義と平和仙台協議会では、今回、「だから、原発やめて」の缶バッチを制作した。

同協議会会長渡辺清さんの5歳の孫(姪の娘)が彼をモデルに描いた絵をもとにして、東京にいるデザイナーがボランティアで原画を作成。

最初は、横断幕を作成したが、だれでも気軽に着けて意思表示が出来るようにと缶バッチに。

仙台では好評で、さらに八戸市、盛岡市、山形市にもひろがっているとのこと。脱原発を目指して、このバッジをさらにひろめて行きたいと渡辺さんは張りきっている。

1個100円で販売中。

問合せは、渡辺清（０８０－１８２７－８７７２）まで。

日ごとの糧を

主の祈りの中の言葉です。むかしは「日用の糧を」でした。子どもの頃日曜の糧をいただくと、月曜はどうなるのか心配でした。英語では「daily bread」で「毎日のパン」です。「その日、その日に必要な食べ物」を意味するのでしょう。明日のことは願わない、今日の糧が与えられれば十分という意味でしょう。

ちゃんと用意されている賜物の中、いま必要としている分を頂くということで、今日的な言葉で言うと、「ストック型」ではなく「フロー型」の所有ということになりましょう。色々な解釈が出来そうですが，過剰な所有、つまり「むさぼり」は お祈りの趣旨に反している。そのことだけは確かです。

必要以上のストックを抱えていなければ安心できないという現代の風潮は年金世代の者にとって必要悪的なところもありますが、「主の祈り」を唱える身としては自戒に値します。

地球を大事にする会　白石　裕

広瀬川殉教地巡礼
「子どもの祈りの集い」

仙塩地区８教会

今年度３回目の「子どもの祈りの集い」は、「巡礼に行こう信仰のあかし」をテーマに、広瀬川殉教地を巡礼しました。集合場所は元寺小路教会。２月９日（土）午前９時半に、仙塩地区８教会の教会学校から、リーダーや両親に連れられて、15人の子どもたちが集まってきました。リーダーたちを合わせて40人近くの参加者でした。

まず、ザビエルの宣教から始まった日本のカトリック教会の歴史と、殉教に至る経緯、そして、08年11月24日に長崎で行われた「ペトロ岐部と187殉教者の列福式」のＤＶＤを見、広瀬川で殉教したカルワリオ神父と９人の殉教者のことをしっかり心に留めて、平賀司教様の出発の祈りに送り出され、元寺小路教会を出発しました。

約30分の徒歩巡礼で殉教碑のある広瀬川河畔に元気に到着。殉教碑の前で、ホセ神父様のリードで祈りをささげ、話を聞き、殉教碑に花をささげました。その後、川縁まで下って、冷たい水に手を入れて、殉教者をしのぶ子どもたちもいました。帰りも元気に元寺小路教会まで歩き、リーダーたちが作ってくださった宮城県と山形県の２種類の芋煮とおにぎりを食べ、心も体も満たされて散会しました。

赴任司祭の自己紹介

私はポール・トー神父です。35歳でケニア人です。私の兄弟は９人います。私は三男です。ケリチョ教区のボメット市で生まれました。首都ナイロビから西南に300㎞くらいのところにあります。トウモロコシと紅茶を作る地方です。ケニヤは70％位がキリスト教信者です。

私はケベック外国宣教会のメンバーで２００９年５月、ケニアで叙階されてから６ヶ月間ケニアで働きました。そして日本へ来ることになりました。２００９年12月18日に日本へ来ました。２０１０年１月から四ッ谷の日米会話学院で日本語を勉強しました。去年11月仙台教区で働くことになりました。東北で働くのはうれしいことです。仙台教区はとても広いところです。教会の信仰を伝えるために皆さんと一緒に協力して働きましょう。

神の導きのままに
仙台教区病障連

２月11日は、病者の保護者であるルルドの聖母の日であることから「世界病者の日」となっています。教皇ベネディクト16世は、「世界病者の日」メッセージで「信仰年は、各人が身近な人のよいサマリア人になるために、教会共同体における愛の奉仕を促すのにふさわしい時です」と呼びかけています。

カトリック仙台教区病者障がい者団体連合会は仙台の祈りの会「カソック仙台」、盲人の会「アンゼラス」、病者・障がい者と共に歩む会「福島グローリア」、そして病者、障がい者など弱い立場にある人々と共に歩む会「岩手病障協」の４団体で構成されています。

毎年、総会や研修会を開催するなどの活動をしています。

２０１２年度は、11月25日、元寺小路教会で講師に光ヶ丘スペルマン病院理事長鷹觜達衛神父＝写真・右から２人目＝を迎えて研修会を行いました。

師は、仙台刑務所の教誨師をされていた時、一人の死刑囚が、明日の死刑を前に淡々と折り目正しい挨拶をされ、かえって教誨師である自分の方が動揺した経験から、洗礼を受けすべての罪をゆるされ、神への信頼のもとに刑を受け入れた人の心の平安について、また、26聖人を例に挙げ、究極の困難にありながらも、喜びの内にそれに打ち勝ち、信仰を貫かれたことを話されました。

人間の弱さの中にあって信仰を深め、信仰に生きることで、死期を迎えるとき神が共におられて導き、守り、支えてくださることを教えられました。

午後からは、佐藤正一氏（元寺小路教会）、小島伸公氏（岩手病障協）、槙野君子氏（仙台カソック）、佐藤幸子氏（福島グローリア）の４人のパネラーによる「神に招かれて」をテーマに、信仰を得られたプロセスや現在の心境等を発表していただきました。

「病む」と題する河野進氏（牧師）の詩に「病まなければ仰ぎえない御顔がある」と歌われていますが、私たち病障連のメンバーは個人差があっても神からいただいた愛を多くの人々に伝えていきたいと切なる思いでいます。

主イエス・キリストのブドウの木に結ばれた私たちは、小さな活動ではありますが主イエス・キリストの愛を繋ぐ役割をこれからも果たして行きたいと思っています。

会長　小野寺　哲（釜石教会）

訃報

スール　マリア・ステッラ
鈴木　照子　（61歳）
聖ウルスラ修道会
１９５１・２・25誕生／１９８２・４・９受洗
１９８５・４・11入会／１９８８・３・20初誓願／１９８９・５～２０１０・３フィリピン宣教／１９９４・３・６終生誓願／２０１３・１・20帰天

フィリピンで会の運営する「黙想の家」で献身的に活動した。

私の信仰の原点

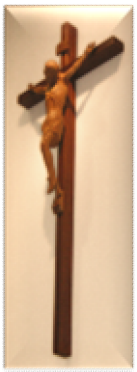
呼ばれたあの日

渡邉泰子

ある日の朝、いつもより早いまどろみの中で、「今日は日曜日、さぁ起きてミサに行きなさい」心地よい夢の中での出来事なのか。今の声は何？ハッとして飛び起きて、周りを見渡したが、いつもと変わりのない朝の様子。その声にいぶかっているうちに、私は以前、自分自身に約束したことを思い出していました。

「あーそうだった、今日がその日の時。今日こそ神様の元へ、ミサに行こう」

と、最初の一歩を踏み出したのです。この一歩が神様からの聖霊のお導きによって呼びかけられていることを実感し、言葉にならない嬉しさが全身にこみ上げてきたことを今も忘れることが出来ません。



私は結婚後、夫の転勤や自分自身の仕事を理由に、これまで何十年間、教会から離れておりました。日々の生活の中で、神様からのお恵みによって生かされている自分と家族がいたものの、積極的にミサに参加することはありませんでした。

自分の仕事が一区切りつき、ゆっくり時間がとれるようになったら、また教会に戻ります、それまでお許しください・・・。日々のお恵みに感謝します、の気持ちh忘れはしませんでしたが、その理由付けを良しとしていたところがあり、なかなか腰が上がらない日々でした。

呼びかけからミサに行き始めているうちに、姉が体調の悪さからしばしば教会で倒れ、信徒の皆様にお世話になっていることを知り、姉の側にいれば何かと安心かなという思いもあって、2年前、東仙台教会に移籍しました。

聖書朗読の奉仕などを2、3度させていただいているだけで、まだ教会にも人にも慣れ親しんでいる実感はなく、ミサにあずかれる喜びだけの日曜日でした。

ある日、典礼担当の方から主日のミサの臨時の聖体奉仕のお話がありました。お話を伺っている間、「えっ！どうして私なのかしら？私で良いのかしら？」という思いが、頭をよぎりました。担当の方から、「神さまからの呼びかけです。聖霊の働きであなたが呼ばれています。その呼びかけにこたえてください」との言葉に、即「ハイ」と返事をしてしまいました。

あの時の呼びかけと、聖体奉仕としての招きの呼びかけに、同じような思いで即答したのだと、今でも不思議でなりません。

聖体奉仕のために勉強会に参加し、ミサと典礼について学ばせていただきましたが、まだまだ消化できないこともあり、不安や戸惑いもあります。

「よばれていますいつも、こたえていますか、いつも…」の聖歌を心に刻み、呼びかけられた奉仕の務めをこれから2年間、皆様の温かいお祈りに支えていただき、またご指導をいただきながら努めてまいりたいと思っております。

（東仙台教会「オアシス」より）

【原稿募集】編集委員会では、「信仰年」にちなんで、「私の信仰の原点」を連載したいと考えています。600字程度で投稿してください。

原稿は、教区事務所広報委員会、または、Eメールで、makiwai@yahoo.co.jpまでお送りください。

百歳おめでとう!!

二本松教会　安田信吉さん

カトリック二本松教会の信徒で現役時代には長年信徒会長をなさっていた安田信吉（のぶよし）さんが、この2月5日にめでたく百歳のお誕生日を迎えられました。現在は介護老人保健施設に入所されていますが、長年教育関係の県職員として勤務し、定年後は子どもたちのために「安田そろばん塾」を開設、90歳まで指導していました。昔かたぎの実直さは今も変わらず、梅津神父様と12人の信徒で押しかけてお祝いをすると、立ち上がって「迷惑ばっかりかけて」と深々と頭を下げ恐縮しておられました。お祝いの言葉を寄せ書きした色紙と暖かい肌着等をプレゼントし、梅津神父様のギターで歌を歌ってお祝いしました。（柳沼千賀子）

新刊案内

十字を切る

著者　晴佐久昌英／発行　女子パウロ会／定価　1300円＋税

私たちが、毎日、何回となく、祈りのたびに、あるいは聖堂に入るたびに十字を切り、「父と子と聖霊のみ名によって、アーメン」と唱えているその祈りが、こんなに深い意味があり、すばらしい祈りだとは知りませんでした。目からうろこでした、とは、本書を読んだ一読者の感想です。

目次を拾ってみると、「十字の祈りとは」、「十字の切り方」、「十字を切るのはこんなとき」と続いており、十字を切るときとして、生まれて初めて切るとき、祈りの前後に付け加えるとき、ミサのとき…とどんなときに十字を切るのかが、その意味とともに著者の経験も交えて説明されています。

本書の後半部分は、「父と」「子と」「聖霊の」「み名によって」「アーメン」と一言ずつを、この深い意味のある祈りについて、やさしい言葉で著者は話しています。

キリスト教信仰の土台とも言うべき、信仰内容や事柄が、わかりやすく語られており、信仰年を歩んでいる私たちにとって、「十字を切る祈り」をとおして信仰を深め、再確認するために役立つものです。